

公益社団法人 兵庫県建築士会 阪神支部

令和6年度 地域重要建造物見学会 まちあるき in 龍野「たつのぶら」記録

日時：令和6年6月15日(土)

参加者：29名（うち一般参加4名）

たつの市内を流れる揖保川の西岸にある、重要伝統的建造物群保存地区を中心に、まち歩きを行いました。案内は、龍野支部でまちづくり委員長でもある岸野氏にお願いし、ルート設定や建物見学先の調整などの準備段階から、当日の案内まで、ご協力をいただきました。

●龍野のまちなみ

下川原、川原町等の道路は、戦後の道路拡幅のため、軒切りされている庇が多く見られました。

今は、車両が渡れる橋ができていますが、それまでは舟運がメインだったので、船着き場のあった辺りはかつてまちの玄関

口でした。その場所にある当時は珍しい3階建ての建物は解体される直前でしたが、有志の懸命の説得で保存される経緯を伺いました。

揖保川の両岸には、「畳堤」といって、川が氾濫しそうな時に近所の住宅から畳を運び、高欄のくぼみにはめ込んで氾濫を防ぐようになっています。珍しいということで全国から見学に来るとのことです。



軒切りと道路境界線との関係の説明を受けました



虎のモチーフがある建物。この辺りはかつて町の玄関口でした



畳堤。本畳が入るように高欄に工夫があります

●浅井家住宅

浅井家住宅は、浅井醤油の3代目当主浅井關三氏が建てた自邸です。隣の旧秋武邸とともに、外壁の修景工事が既に行われて、今年度より内部改修に取り掛かっている状況での見学でした。浅井家住宅の2階からは、揖保川をはさんで東側にあるヒガシマル醤油工場が一望できるようになっています。1階と2階で同じ間取りだが、別の大工を競わせ、趣が違いうように作らせたのも特徴の一つです。

当主の浅井さんからお話を



外壁等外側の工事が終わった旧秋武邸



当主の浅井さんより、建物の特徴を伺いました



浅井家の揖保川沿いの塀は洋風で斬新なデザイン



浅井家の1階と2階は違う大工が施工し競わせたとのこと

伺うことができました。揖保川の西にあるこの浅井家と、東にある堀家。それぞれの当主である浅井さんと堀さんは同級生で、お互い保存と利活用を頑張ってきた建物で、今後は一緒に龍野を盛り上げていこうと動き始めているということです。

●片しば竹の宿 梅玉旅館（昼食）

梅玉旅館には天然記念物の片しば竹が庭にあり、敷地から持ち出せないとされています。また、映画「男はつらいよ」の舞台にもなったことで有名です。



梅玉旅館の旧玄関がロケに使われました

●重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）と歴史的景観形成地区（景観形成地区）

2つのエリアの特徴として、景観形成地区の武家地ゾーンは道路幅も比較的広く、主に昔、庭や門、塀のある武家屋敷が多い場所です。一方、重伝建地区は建て詰まった町家が多かった旧町人地となっています。その境となる道路には、武家地ゾーン側に石垣が詰まれレベルが高くなっているのが見えます。川が氾濫しても武家屋敷は被害を受けないように、まちのゾーニングがされていました。地区の経緯としては、景観形成地区が広範囲で指定された後、近年、旧町人地の辺りが重伝建地区となりました。



●聚遠亭

龍野藩脇坂家の上屋敷跡にある建造物や庭園をまとめて聚遠亭と言います。ここから龍野の城下町が一望できます。御涼所（おすずみしょ）には当時の殿様が茶をたしなんでいるときに襲われても逃げることができるよう、専用の地下通路が作られていました。



茶室



御涼所

聚遠亭からは龍野城下町が一望できます。揖保川東岸にヒガシマル醤油の工場も見えます



●堀家住宅

堀家は一橋徳川家の庄屋をつとめた豪農で、主屋 1 棟、座敷 2 棟、蔵 12 棟など、計 23 棟が敷地内にあります。大半が江戸時代のもので、かつ現在も住まいとされている国指定の重要文化財で、全国的にも貴重な建物です。



揖保川東岸の森のようになっていくところが堀家住宅



長屋門も重要文化財になっています

当主の堀さんに案内していただきました。揖保川に面している西側は米蔵が並んでおり、オウラ北門を抜けた北側は、生活用の蔵や裏座敷がありました。

見学後は堀さんと岸野さんから保存と利活用の取り組みについて話を伺いました。兵庫ヘリテージ機構が設立された初期に本格的な調査が行われ、図面起こしから始まりました。時間と労力と資金がかかるため、また、重文で「住んで守っていききたい」という強い意志を持っておられるので、世代を超えて受け継がれるように、敷地内のいくつかある建物を計画的に進めていくということです。

今後は見学やイベントの回数を増やし、まちの活性化に向けて、浅井家住宅とともに利活用に取り組んでいきたい、とおっしゃっていました。

●岸野建築設計工房

重伝建地区内にある、自身で改修した岸野さんの事務所も見学させていただきました。1階は地元高校生による店舗となっており、地元に貢献しながら仕事をされている岸野さんの建築士としての姿勢にみなさん感心していました。



ゲンカンノマは吹き抜けで大きな梁が特徴的です



ゲンカンノマから見たカミノ



外壁の板は船に使われた貴重な木の再利用



主屋の西の庭に米蔵が並びます



改修工事の度に申請手続きが必要になるため自分で行うことも



八番蔵及び九番蔵



今回、阪神支部のほか、姫路支部、龍野支部、事務所協会、一般の方々の参加があり、時間の許す限り、龍野の見どころを詰め込んだタイムスケジュールで、大変充実したまち歩きとなりました。

龍野城の埋門（うずみもん）の前で集合写真

- ・協力：龍野支部
- ・記録：山本和代
- 共催：（一社）兵庫県建築士事務所協会阪神支部